

特定非営利活動法人日本咀嚼学会健康咀嚼指導士  
平成 28 年度第 1 回フォローアップセミナー

日 時：平成 28 年 3 月 26 日（土）16：30～17：30

会 場：東京医科歯科大学 1 号館西 9 階 特別講堂

講演内容： チーム医療における口腔管理と咀嚼機能

講 師：『チーム医療における口腔と咀嚼の重要性』

古屋純一 先生（東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔保健衛生学分野 教授）

『緩和ケアにおける咀嚼機能回復の意義』

松尾浩一郎先生（藤田保健衛生大学医学部歯科 教授）

『チーム医療における口腔と咀嚼の重要性』

講師：古屋純一 先生（東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔保健衛生学分野 教授）

【要旨】

高齢者歯科・摂食嚥下・補綴の専門家としては、「チーム医療における食支援の一環として、口腔や咀嚼の問題に対応する機会が増えている」というのが昨今の実感である。特に、栄養サポートチームや緩和ケアチームでは、多職種が参加する摂食嚥下リハビリテーションが重要な意味を持ち、その中で口腔や咀嚼が果たす役割は大きい。なぜなら、口から食べることは、生命維持に必要な活動であると同時に、生活における楽しみや尊厳など QOL に直結する重要な営みだからである。本講演では、超高齢社会のチーム医療の現場で働く歯科医師としての演者の経験を踏まえ、高齢者の口腔管理と咀嚼を含めた食支援に関するいくつかの知見を総論的に解説し、咀嚼の持つ可能性について考えてみたい。

『緩和ケアにおける咀嚼機能回復の意義』

講師：松尾浩一郎先生（藤田保健衛生大学医学部歯科 教授）

【要旨】

がん患者への周術期口腔機能管理は、歯科診療報酬にも導入され、平成 28 年からさらにその対象が緩和ケア患者へも拡大されることとなった。今後、通院での化学療法や在宅看取りなど、がん治療が入院での医療から地域包括ケアへとシフトしていく中で、がん患者への口腔管理は、今後われわれにとってより身近なものになっていくことは間違いない。

がん治療期における口腔管理の目的は、合併症の予防と経口栄養摂取の促進である。一方、緩和期では、口腔内環境を整え、経口摂取のサポートをすることによる QOL の維持向上が最終的な目的となる。進行がん患者では、全身状態の悪化や化学療法の副作用により多くの口腔問題が出現してくる。緩和ケアにおける QOL の維持向上を目的と考えると、がん治療期と同じように、器質的な口腔ケアだけでなく、最後まで口から食べられるように機能面への配慮も必要である。しかし、残念ながら、緩和ケア患者への咀嚼機能回復の意義については明確なエビデンスはでていない。実際、緩和ケアでの介入研究のデザインはかなり難しいところがある。今回の発表では、演者が体験した症例を提示しながら、その重要性と必要性についてお話ししていきたい。